

・・・縄文のタイムカプセル・・・

# 縄文人はマメを栽培したのか？

北本市教育委員会文化財保護課 平成 29 年 8 月 20 日発行



左の土器は縄文時代中期の住居跡の炉跡から出土した勝坂式土器です。土器の表面にアズキの圧痕(写真上)がはっきりと残っていました。

図1 アズキの圧痕が残る縄文土器とアズキの圧痕(デーノタメ遺跡第1次調査8号住居跡出土)

## 1 縄文時代のマメ栽培

現代に生きる私たちは、なかなかのマメ(豆)好きです。ダイズ、アズキ、ソラマメ、インゲンマメ、ヒヨコマメ、グリーンピースなど、様々なマメ類が食卓にのぼります。もちろん、お酒のつまみになる枝豆や加工された納豆、豆腐、味噌、醤油もダイズで作られています。このうち、日本に元から自生していたマメはダイズとアズキの2種類で、ダイズの原種をツルマメ(図2)、アズキの原種をヤブツルアズキ(図3)といいます。

近年、植物考古学の研究では、縄文人がマメを食べていたばかりか、栽培をしていた可能性が高いと指摘されるようになってきました。これらのマメ類はツル性なのですが、人が栽培するとマメが大きくなり、ツルではなく自立するように変化していくといわれています。

実は、山梨県長坂町の酒呑場遺跡から出土した5,000年前の縄文土器には、長さが11.8mm、幅が5.7mmという大きなダイズの圧痕がついていたのです。この大きさは、

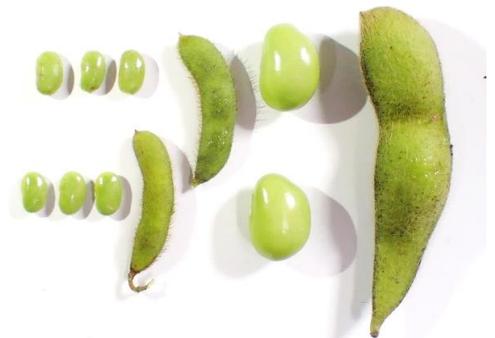


図2 ツルマメ(左)とダイズの比較



図3 ヤブツルアズキ(左)とアズキ

すでに 5,000 年前の縄文人がダイズの大型化に成功していたことをうかがわせるものです。

## 2 圧痕調査と水洗選別調査

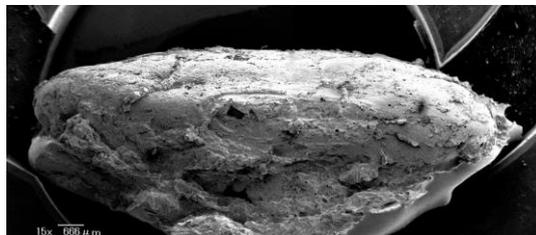
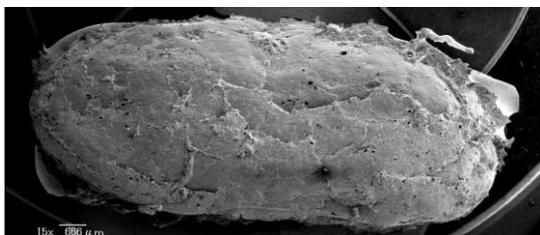
デーノタメ遺跡の調査でも、このマメ類の痕跡が確認されています。調査の方法は2つです。1つは遺跡から出土した土器の表面を観察し、マメ類の圧痕を探す方法です。これを「圧痕レプリカ法」といいます(図4)。もう一つは、調査区からサンプリングしてきた土壌を洗い出し、その中からマメ類をはじめとする植物遺体を選別する方法です。

2つの調査の結果、圧痕レプリカ法ではアズキ(図1)のほかに、ダイズの圧痕も確認することができました。しかも、図5に示したダイズの圧痕レプリカは、長さが11.7mm、幅が4.9mmで、先に紹介した酒呑場遺跡のダイズとほぼ同じ大きさであることがわかります。やはり、デーノタメ遺跡の縄文人もダイズを栽培していた可能性が高いのです。

また、縄文時代中期(勝坂期)のクルミ塚内の土壌では炭化したダイズが、後期(堀之内期)の6号土坑でも、やはり炭化したダイズが確認されています。



図4 圧痕レプリカの作成



第5図  
大型のダイズの圧痕  
(走査型電子顕微鏡)  
※熊本大学小畑弘己科学  
研究費助成事業成果  
撮影 山本 華

### 市内に残る野生のダイズとアズキをさがしてみよう!!

植物の観察は楽しいものです。収穫できる植物であればなおのことでしょう。市内の植物調査をすると、ツルマメもヤブツルアズキも自生していることがわかりました。ヤブツルアズキの方が少ないのですが、いずれも荒川の河川敷で見られます。とくに8月はともに花を咲かせるので比較的確認するのが簡単です。収穫期は秋の10月です。試しに枝豆やお汁粉をつくってみると、本当に美味しくて驚かされるほどです。



自生地の荒川河川敷



ツルマメと花



ヤブツルアズキと花